

Anritsu
Sustainability Overview 2021



共に持続可能な未来づくりを

2021年4月、アンリツは2030年に向けて、新たな経営ビジョン、経営方針を掲げました。これに合わせ、サステナビリティ方針も改定しました。これらの理念、ビジョン、方針を基に社員一人ひとりが行動に移し、ステークホルダーの皆さまと共に、持続可能な未来づくりに挑んでいきます。



サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- ① 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。
- ② 気候変動などの環境問題へ積極的に取り組み、人と地球にやさしい未来づくりに貢献します。
- ③ すべての人の人権を尊重し、多様な人財とともに個々人が成長し、健康で働きがいのある職場づくりに努めます。
- ④ 高い倫理観と強い責任感をもって公正で誠実な活動を行い、経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える企業となります。
- ⑤ ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、協力関係を育み、社会課題の解決に果敢に挑んでいきます。

改定 2021年4月

アンリツグループ企業行動憲章

アンリツグループ行動規範

経営ビジョンに込めた思いと新ブランドステートメント

新しい経営ビジョンには、社員一人ひとりが、挑戦し、新しい価値を社会に提供し続け、未来に向けて成長していくという思いを込めています。この思いを凝縮させたブランドステートメント“Advancing beyond”を広くステークホルダーの皆さまに発信し、アンリツの決意をお伝えするとともに、ご期待に応えられる企業を目指します。

新経営ビジョン

**「はかる」を超える。限界を超える。
共に持続可能な未来へ。**

「はかる」を超える。

アンリツは、「はかる」を極めていくと同時に、外部の異なる発想や技術をさらに掛け合わせ、従来の「はかる」を超えた、更に高い価値や新領域を創造していく。

限界を超える。

社員一人ひとりの情熱と挑戦で、自らの殻を打ち破り技術だけでなく、組織のあらゆる場面でブレークスルーを生み出し、事業のこれまでの限界を超えて、アンリツは変貌し続けていく。

共に持続可能な未来へ。

これからのアンリツは、持続可能で魅力的な未来を次世代につなぐため、社員、お客さま、そして関係するあらゆる人々と共に、社会課題の解決に果敢に挑んでいく。

ブランドステートメント / ブランドストーリー

Advancing beyond

立ち止まっても、未来はやってくる。
だが、そんな未来にどんな価値があるのだろう。

アンリツは、さらに先へ行く。

情報通信の発展や食品と医薬品の安全・安心を、「はかる」技術で支えてきた、その積み重ねを足掛かりに。さまざまなパートナーと発想や技術を掛け合わせ、新たな領域へ。

殻を打ち破れ。あらゆる枠組みを超えて行け。

豊かで持続可能な社会の実現に向かって、共に「はかる」を超え、限界を超えて行く。

Advancing beyond

トップメッセージ

安全・安心で豊かなグローバル社会のサステナビリティ実現と 新たな価値創造を目指して

代表取締役 社長 グループCEO

濱田 宏一

2021年4月、アンリツグループは経営ビジョンを新たに定めました。“「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。” ステークホルダーの皆さまと共に、社会のサステナビリティのために、あらゆる限界を超えて挑戦を続けるアンリツグループにご期待ください。

人と地球にやさしい未来をつくり続ける「志」を持つ

新経営ビジョン『「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。』は、アンリツのコンピテンシーである「はかる」を極めていくとともに、社内外の異なる発想や技術をさらに掛け合わせ、従来の「はかる」を超えた高い価値や新領域を開拓していくことで次の事業の柱を成長させ、そして、社員一丸となって攻めの姿勢で今までのアンリツの限界を超えて、関係するあらゆるステークホルダーと共に持続可能で魅力的な未来を次世代につないでいくという強い思いを込めました。



「はかる」技術でサステナビリティの根幹を支える

私たちは、「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

新型コロナウイルス感染症防止対策として、ビジネスや医療、教育、行政などでもオンライン化が加速している今日、経済活動や生活を維持するために欠かせない安全・安心で強靱なネットワークインフラの構築が喫緊の課題となっています。また経団連のSociety 5.0で重要なデジタルトランスフォーメーション(DX)は、さまざまなデジタル技術の進化により人々の生活をより良いものへと革新していくことであり、これも通信を基盤としています。

アンリツは、産業と技術革新の基盤につながる安全・安心なインフラ整備を支える技術・製品・ソリューションを提供し、持続可能な社会の建設に関わる産業の創造とイノベーションを促進していくことをグループ全体の取り組みとしています。

サステナビリティ経営の推進を強化

経営ビジョンとともに刷新した経営方針の一つに、『ステークホルダーと共に人と地球にやさしい未来をつくり続ける「志」を持つ』を掲げました。またサステナビリティ方針の改定も行い、ESGの各要素への取り組みを明示しました。ステークホルダーの皆さまと連携していくことで、気候変動、人権の尊重、ダイバーシティ&インクルージョン、平和で公正な社会の維持など、社会課題の解決に取り組み、未来社会の担い手になるという

強い思いを反映しています。

2030年の長期視点からバックカスティングし、そのマイルストーンとなる3年計画の具体的な目標を示すことが必要であると考え、2021年4月に、ESG領域におけるサステナビリティ目標を公表しました。この目標に向かって、多様な個性と能力を持つ社員一人ひとりが世界共通の目標であるSDGsを「自分ごと」と捉えて活動し、SDGsのゴール達成に貢献するために、社員と共にサステナビリティ経営を強化してまいります。

サステナビリティ目標

	目標・取組	GLP2023:KPI
E 環境	温室効果ガス削減に向けた長期計画と取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 温室効果ガス (Scope1+2) 2015年度比23%削減 ● 温室効果ガス (Scope3) 2018年度比13%削減 …2030年度で30%削減
	自家発電比率の向上 (PGRE 30)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自家発電比率: 13%以上 …2030年ごろまでに30%程度まで高める
S 社会	ダイバーシティ経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の活躍推進: 女性幹部職比率15%以上 ● 高齢者活躍推進: 70歳までの雇用及び新処遇制度確立 ● 障がい者雇用促進: 職域開発による法定雇用率2.3%達成
	グローバルなCSR調達の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーン・デューデリジェンスの強化: 3年累積10社以上 ● CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上
G ガバナンス	グローバルなガバナンス力向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会の多様性の推進、社外取締役比率50%以上
	海外子会社の内部統制構築推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 全海外子会社が統制自己評価(CSA)の基準を満たす

PGRE 30による太陽光自家発電比率の向上で、再生可能エネルギーの拡大に貢献

なかでも気候変動問題の対応策となる環境目標であるPGRE 30は、2019年に策定した温室効果ガス排出量削減活動「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」のことで、アンリツ独自の取り組みです。自社で太陽光発電設備を導入し、アンリツグループの2018年度における電力消費量を基準とした太陽光自家発電比率を、2018年度の0.8%から2030年ごろまでに30%程度

まで高めることを目標としています。すでに本社(神奈川県厚木市)と東北アンリツ(福島県郡山市)で太陽光自家発電を行っています。2020年10月には、Anritsu Company(米国カリフォルニア州)で1,100kWの設備の稼働を開始しました。これにより2020年度における太陽光自家発電比率は3.3%となりました。また、2021年度は7~8%になると推定し、2023年度までには13%以上に持って行きたいと考えています。

今後も3つのサイトで太陽光自家発電設備を増設し、SDGsのゴール7、ターゲット7.2「2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる」に貢献いたします。

コロナ禍を乗り切るために

新型コロナウイルスの感染が世界中で未だ終息していない中、アンリツでは感染予防と事業継続の両立に取り組んでいます。テレワークやソーシャルディスタンスの確保、各種イベントのオンライン開催などに加え、社員送迎用通勤バスの運行や不織布マスクの自社製造もを行っています。マスクの製造を担っているのは、アンリツ興産(株)の社員です。社員配布の他、お客さまや取引先さまへも提供しています。またオフィスや社員食堂、応接室などに設置している飛沫防止パネルは、子会社のATテクマック(株)が製造しました。

経営理念で掲げる「誠と和と意欲」をこれからも引き継ぎ、新たな経営ビジョンを浸透させ、しっかりと実践し、社会にとって必要な会社、より良い未来を創るために役立つ会社を目指してまいります。あらゆる限界を超えて挑戦を続けるアンリツグループにどうぞご期待ください。

サステナビリティ経営が目指す未来



事業を通じて解決する社会課題

<h4>アンリツグループの事業全体</h4> <p>安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する</p>	<h4>通信計測事業</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 強靭なネットワークインフラ整備 	<h4>PQA事業※1</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 食品ロスの低減 ● 品質保証
	<h4>環境計測事業</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 強靭なインフラ構築 ● 自然災害の防災／減災 	<h4>センシング&デバイス事業</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 強靭なインフラ構築 ● 健康的な生活の確保

社会の要請に応える課題 (ESG)

<h4>Environment</h4> <p>持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 再エネ自家発電比率向上 ● CO₂排出量(エネルギー消費量)／水使用量の削減 ● 高品質で環境に配慮した製品の開発／製造 ● 環境負荷を低減するSCM※2 	<h4>Social</h4> <p>多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権と多様性の尊重 ● 人財育成 ● 労働安全衛生 ● 人権に配慮したSCM 	<h4>Governance</h4> <p>透明・公正かつ迅速・果断な意思決定とリスクマネジメントで誠実な企業活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コーポレートガバナンス ● コンプライアンスの定着 ● リスクマネジメントの推進
---	---	--

コミュニケーションの推進による共有価値の創造

全てのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する

- ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション

- (通信計測事業)
- 通信用半導体メーカー
 - 通信モジュールメーカー
 - スマートフォンメーカー
 - 無線基地局メーカー
 - 通信事業者
 - 自動車メーカー
 - IoT端末メーカー
 - 家電メーカー
 - 航空宇宙関連
- (PQA事業)
- 加工食品メーカー
 - 医薬品メーカー
- ほか



- (環境計測事業)
- 金融関連事業者
 - 教育機関
 - 自治体
 - 通信事業者
- ほか
- (センシング&デバイス事業)
- 医療機器メーカー
 - 通信事業者
 - 通信部品メーカー
- ほか

サステナビリティ経営が目指す未来

安全・安心で豊かなグローバル社会の発展

アンリツは、お客さまとともに事業を通じて社会課題の解決に貢献します。そして、アンリツが重要と考える社会の要請に応える課題(ESG)に引き合い、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを重視し、グローバル社会のサステナビリティの発展に向けて取り組みます。



WEB 中期経営計画 GLP2023

※1 PQA事業：プロダクト・クオリティ・アシュアランス事業
 ※2 SCM：サプライチェーンマネジメント

研究開発と知的財産

アンリツグループが社会課題解決に貢献する原動力として、最先端技術を用いた研究開発力とそれを実践する人財力が重要であると考えています。先進技術の獲得に努め、保有し活用することによって、“オリジナル&ハイレベル”な商品、ソリューションを開発し、グローバルに提供することで、お客さまとともに持続可能な社会の構築に貢献します。

戦略的な知的財産マネジメント

オリジナル&ハイレベルの源泉

アンリツグループの研究開発体制

主力の通信計測事業は、日本を中心に米州、EMEA*、アジア他に開発拠点をもち、各地域が保有する技術の有効活用でシナジーを生み出し、先進の製品開発に挑んでいます。



*欧州・中近東・アフリカ

多様な人財

国籍、性別、年齢、専門分野などさまざまな考え方や価値観を持った多様な人財が連携し、オリジナル&ハイレベルな商品を創出しています。基盤技術や将来技術の研究開発を担う先端技術研究所では、さまざまな経験を持つ多くの中途採用人財も活躍しています。

先端技術研究所



標準規格団体への参画

11 団体への参画
(2021年3月現在、通信計測事業)

WEB 参画団体

お客さま、他企業とのパートナーシップ

研究・開発

売上高に対する研究開発費比率

10.6%
(2020年度)

WEB 研究開発費推移

獲得

保有

活用

アンリツグループの技術(抜粋)

モバイルコミュニケーション 2G、3G、4G & 5G

- シグナリング技術
- 信号解析技術

オートモーティブ IoTコネクティビティ

- 幅広い無線技術
- コミュニケーション解析技術

クラウドコンピューティング 超高速シリアルインターフェース

- 超高速デジタル信号技術
- 光解析技術

共通基盤技術

- FPGA設計技術
- ソフトウェア設計技術

X線異物検査

- 画像処理技術
- Deep Learning応用

質量検査

- 高速・高精度ダイナミック計量技術
- 計量安定化技術



知的財産の活用

知的財産は、企業の持続的成長に重要な経営資源の一つであり、事業戦略と密接に関係しています。知的財産部門は、研究開発成果である知的財産の権利化と、それを補完する社外技術の獲得による知的財産ポートフォリオの充実を推進し、事業部門とともに事業戦略の実現を目指しています。



新製品・技術の公開

新製品情報、技術情報などはWebサイトを活用し広く展開しています。また、アンリツグループの技術論文集アンリツテクニカルや学会誌への寄稿論文などでも公開しています。

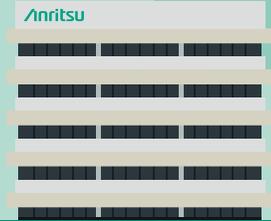
WEB アンリツテクニカル

経営戦略

事業戦略

バリューチェーンと事業を支える強み

安全・安心で豊かな社会づくりを支えるアンリツは、製品の企画・開発から廃棄に至るプロセスで、環境配慮や人権尊重などの社会の要請に応え、ステークホルダーと協働しながら価値を高めるバリューチェーンを構築しています。



アンリツの事業

通信計測事業

「5G/IoT社会の実現を支える通信計測ソリューション」の提供を通して

- 通信利活用による社会課題の解決
- 通信でつながる豊かな社会の実現

PQA事業

「食品や医薬品の安全・安心を支える品質保証ソリューション」の提供を通して

- 製造段階の食品ロスの低減
- 安全で安心して健康に暮らせる社会の実現

環境計測事業

「強靱な社会インフラを支える情報通信ソリューション」の提供を通して

- 映像監視による防災・減災の実現
- 重要な通信の安定運用

センシング&デバイス事業

「安全・安心で快適な社会づくりを支える産業/医療用光センシング、通信用デバイス」の提供を通して

- 医用機器の進化と人々の健康的な生活
- デジタル変革社会の実現

アンリツの強み

- 研究開発力
- 環境先進性

- 取引先さまとの信頼関係

- 高度な製造・調整・検査技術
- 柔軟な多品種少量生産体制

- 物流業者さまとの連携
- 製品包装設計の自社化

- お客さまとの信頼関係と実績
- グローバルな販売網
- リモート販促

- 熟練した保守エンジニア
- 充実した保守・サービス

- 廃製品のリサイクル機能を自社化し、サーキュラー・エコノミーを実現



企画・開発



資材調達



製造



出荷物流



販売
(お客さま)



保守



廃棄

社会の要請

- 先端技術への追従
- 環境配慮型製品
- 品質と製品安全

- 環境・人権に配慮した資材
- サプライチェーン人権リスクの低減

- 環境・人権に配慮した生産
- 品質と製品安全

- CO₂排出量の削減
- 廃棄物の削減

- 品質と製品安全
- 環境負荷低減
- 的確な情報提供

- アンリツ製品の安定稼働

- 資源循環(資源の有効活用)

アンリツの取り組み

- 関連団体への参画
- 協業の推進
- 省エネ、省資源、有害物質非含有設計
- 製品アセスメント

- CSR調達、グリーン調達
- 人権デューデリジェンスの実施
- 現代奴隷法対応
- 紛争鉱物対応

- 生産革新
- 太陽光パネルの設置
- 安全な製造現場の維持

- 包装の簡素化、リユース化、素材変更
- モーダルシフト(トラック→鉄道)

- お客さま満足の向上
- 製品アセスメント
- 製品の省電力化
- Webサイトによる製品紹介、操作ガイド類の充実

- グローバルなサポート体制
- リモートサポート、メンテナンス

- 使用済み測定器を整備し再販
- 徹底した分別で高リサイクル率の維持

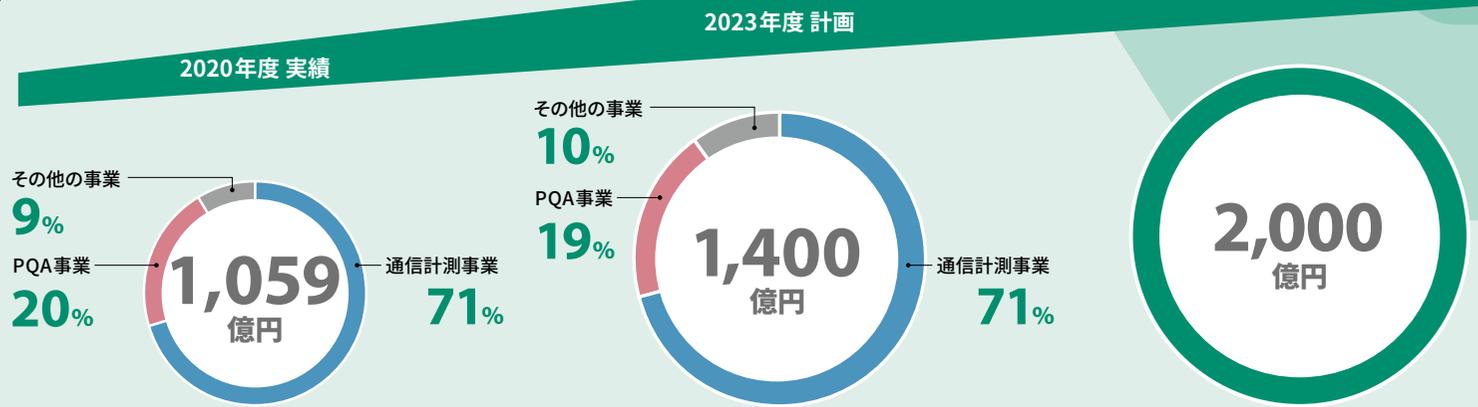
- 地球環境保護
- 人権と多様性の尊重
- 人材育成
- 労働安全衛生
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント

- ステークホルダーとのコミュニケーションの推進

中長期目標に向けて

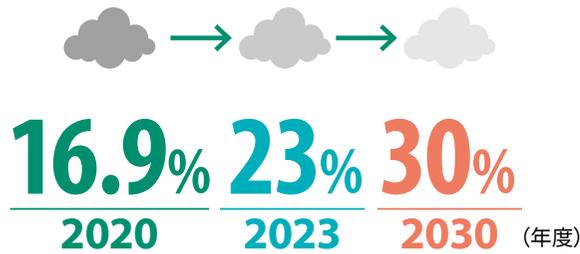
2030年度 目標

売上高

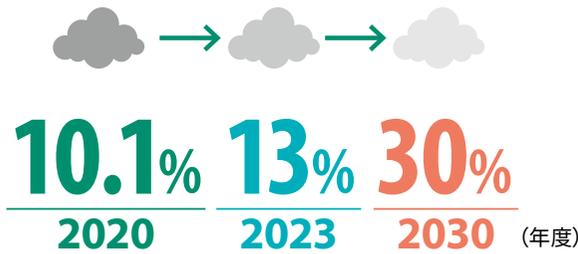


2023年度サステナビリティ目標 (ESG)

温室効果ガス削減 (Scope 1+2) 2015年度比

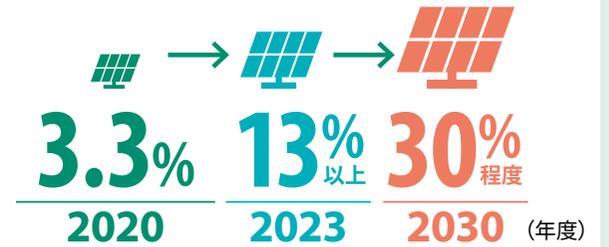


温室効果ガス削減 (Scope 3) 2018年度比

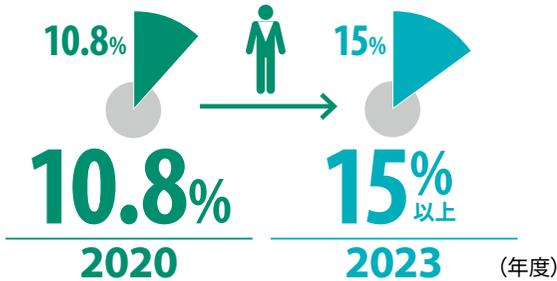


自家発電比率

(基準: 2018年度の電力消費量)



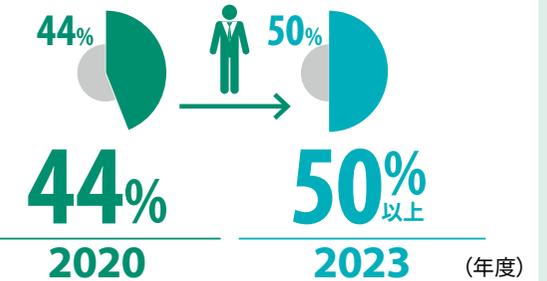
女性幹部職比率



サプライチェーン・デューデリジェンス
取引先さま往査件数



社外取締役比率



通信計測事業

先進的な計測技術で最適な通信テストソリューションをいち早くお届けすることを使命に、安全・安心な通信インフラの構築に関わるお客さまをサポートし、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献します。



社会課題・顧客ニーズ

デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

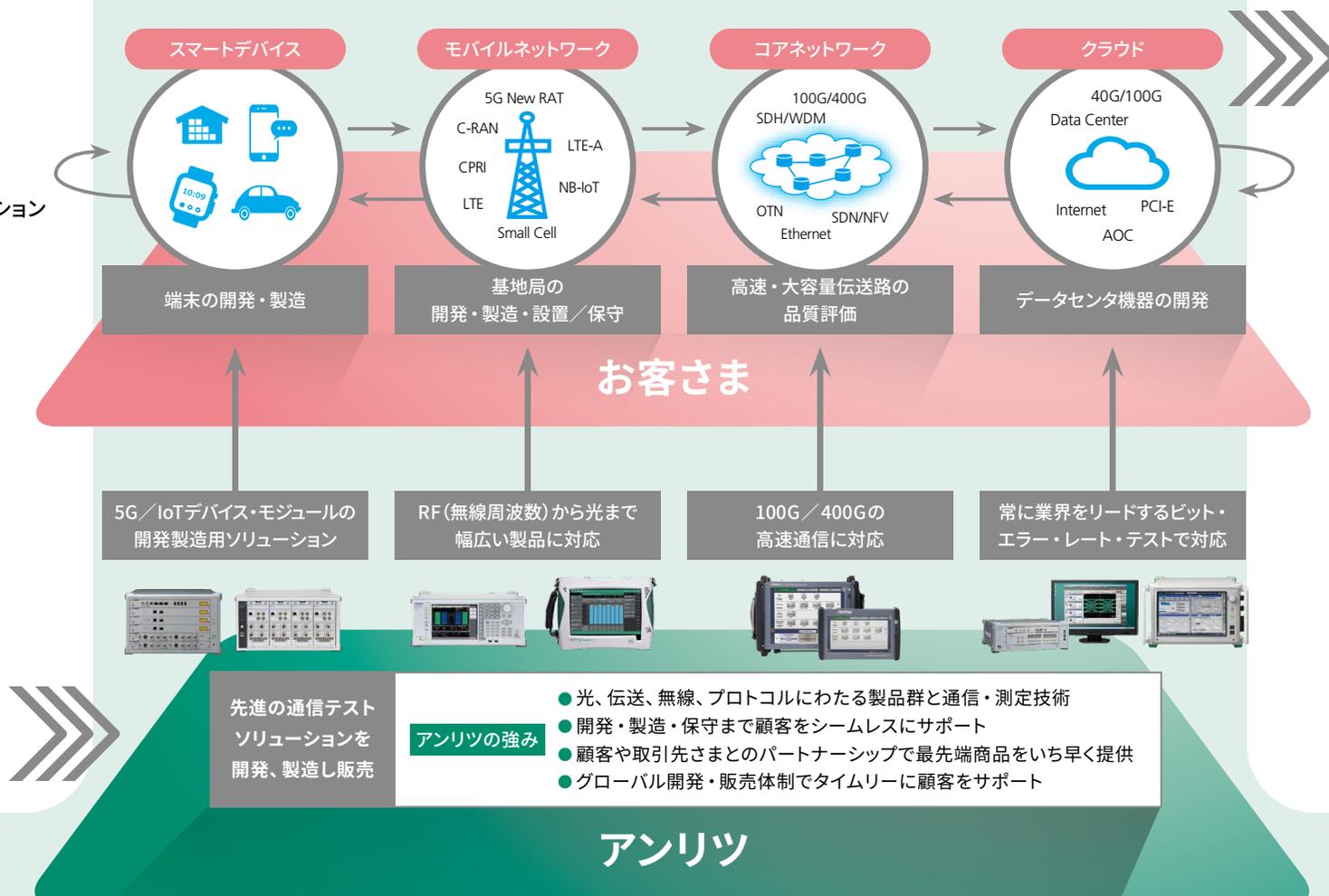
社会課題

- デジタルトランスフォーメーション
- 通信インフラの増強
- テレワーク環境整備
- 交通事故の減少
- 産業の効率化
- 地方格差の解消

顧客ニーズ、関心事

- 5G最新技術に迅速対応
- 6Gの開発
- グローバルサポート
- 優れた投資対効果
- 環境負荷低減など

5Gインフラの開発・製造・建設・保守をアンリツの測定器で評価・検査



未来社会

5Gの特長を生かした社会課題解決ソリューションで、豊かな未来を創造

5G

高速・大容量 多数同時接続

超低遅延





会社見学の学生さんがアンリツのエンジニアに聞いてみた

通信計測事業のSDGs

未来の社会では、DX(デジタルトランスフォーメーション)をはじめとする技術革新に支えられた産業と生活が期待されています。これらの技術革新は高度な通信ネットワークに支えられています。アンリツの通信計測事業は、その開発のサポートや品質を担保する信頼性の高い通信テストソリューションの提供を通じて、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」とゴール11「住み続けられるまちづくりを」にお客さまとともに貢献しています。



技術革新によって未来のまちはどのようになるとお考えですか？

未来のまちでは、DXによってさまざまな社会課題が解決され、より快適で豊かな生活が送れるようになってきていると思います。例えば、5Gの超低遅延特性を生かした自動運転や遠隔医療ですね。



未来のまちづくりでアンリツはどんな貢献をしていますか？

まちづくりの基盤となるのが、確実につながる高度な通信ネットワークです。その通信品質は、信頼性の高い通信テストソリューションによって検査されることで確保されています。アンリツは、スマホや基地局の開発・製造・保守に必要な通信品質を保证するテストソリューションを提供しています。これによって通信事業者さまは確かにつながる強靱な通信ネットワークを構築し、交通の安全性改善も高めていきます。これらは、SDGsのターゲット9.1と11.2の達成に貢献しています。



テストソリューションの役割をもう少し具体的に教えてください

端末や装置などは世界の通信ルール通りにつくられているか確認することが求められています。テストソリューションとなる測定器は目に見えない電波を可視化したり、基地局の代わりに最新の通信ルール通りに動作するのを確認することができます。測定器で検証された正しい端末、装置が、右の図のような安全・安心で豊かな未来のまちを創り出していくのです。



なるほど。だから、アンリツはSDGsのゴール9と11に貢献しているのですね。



5Gがつくる「未来のまち」

- スマホ／通信端末**
VR／エンタメ高度化
→ 快適で豊かな生活を演出
- 自動車**
自動運転の実現
→ 交通事故削減／渋滞解消
- データセンタ／クラウド**
AI／ビッグデータ活用
→ 産業のイノベーション促進
- 河川／山林**
現場の高精細映像監視
→ 避難喚起／対策の迅速化
- 建設現場**
建機の遠隔操作／自律制御
→ 労働者の安全／人材不足の補完
- 農業／酪農**
農場温湿度管理／家畜健康管理
→ 後継人材／経験不足の補完
- 医療**
遠隔医療の進化
→ 医療格差の是正
- 26c
60%

PQA事業

PQA事業は、食品や医薬品産業に向けて生産ラインの品質検査工程を自動化するソリューションを提供しています。ここでは事業の8割以上を占める食品産業の社会課題にフォーカスし、アンリツの取り組み事例をご紹介します。



社会課題・顧客ニーズ

安全で安心できる
食品の安定供給

社会課題

- 健康でおいしい食品の安定供給
- 安心して口にできる品質の保証
- 食品ロスの減少
- 労働力不足の解消

顧客のニーズ、関心事

- 高速かつ高精度な検査
- 衛生性と清掃のしやすさ
- メンテナンスの容易さ
- 生産ラインの自動化とリモート監視
- データの活用による生産性の向上
- トレーサビリティの確保

アンリツの品質保証ソリューションで品質検査工程の自動化を実現

生産ラインの構成例



お客さま



高速高精度、
高信頼の検査機を
開発、製造し販売

アンリツの強み

- 高速かつ高精度なインライン品質検査技術
- 多様な生産ラインに検査機を導入する適応力
- 国内の充実した保守体制と熟練した保守エンジニア
- 国内の食品検査市場での実績とトップクラスの市場地位

アンリツ

未来社会

食品の品質保証の
高度化を通じて

- 安全で安心して暮らせる社会の実現
- 食品ロスの少ない持続可能な社会





会社見学の学生さんがアンリツのエンジニアに聞いてみた

PQA事業のSDGs

世界では毎年13億トンもの食品ロスが発生しており、ロスの削減が持続可能社会の実現に向けた課題となっています。食品ロスの多くは食べ残しや賞味期限切れなどですが、製造品質を高めることで防げるロスも少なくありません。PQA事業は品質保証を通じてターゲット12.3「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。」に貢献しています。



社会課題となっている食品ロスについて教えてください

食品ロスとはまだ食べられるのに捨てられてしまう食品を指します。野菜や肉などの食材が工場加工され家庭で消費されるまでに、大量の食品が廃棄物として処理されており社会問題化しています。SDGsのターゲット12.3では「食品ロスの半減」を掲げており、国際社会が協力して目標達成に取り組んでいます。



アンリツの食品ロス低減ソリューションについて教えてください

加工食品が工場を出て市場に流通した後、不良品であることが判明すると大量の食品を回収して廃棄しなくてはなりません。アンリツは、食品メーカーへの品質検査機器のご提供を通じて不良品の市場流出を防止することで、食品ロスの低減に貢献しています。



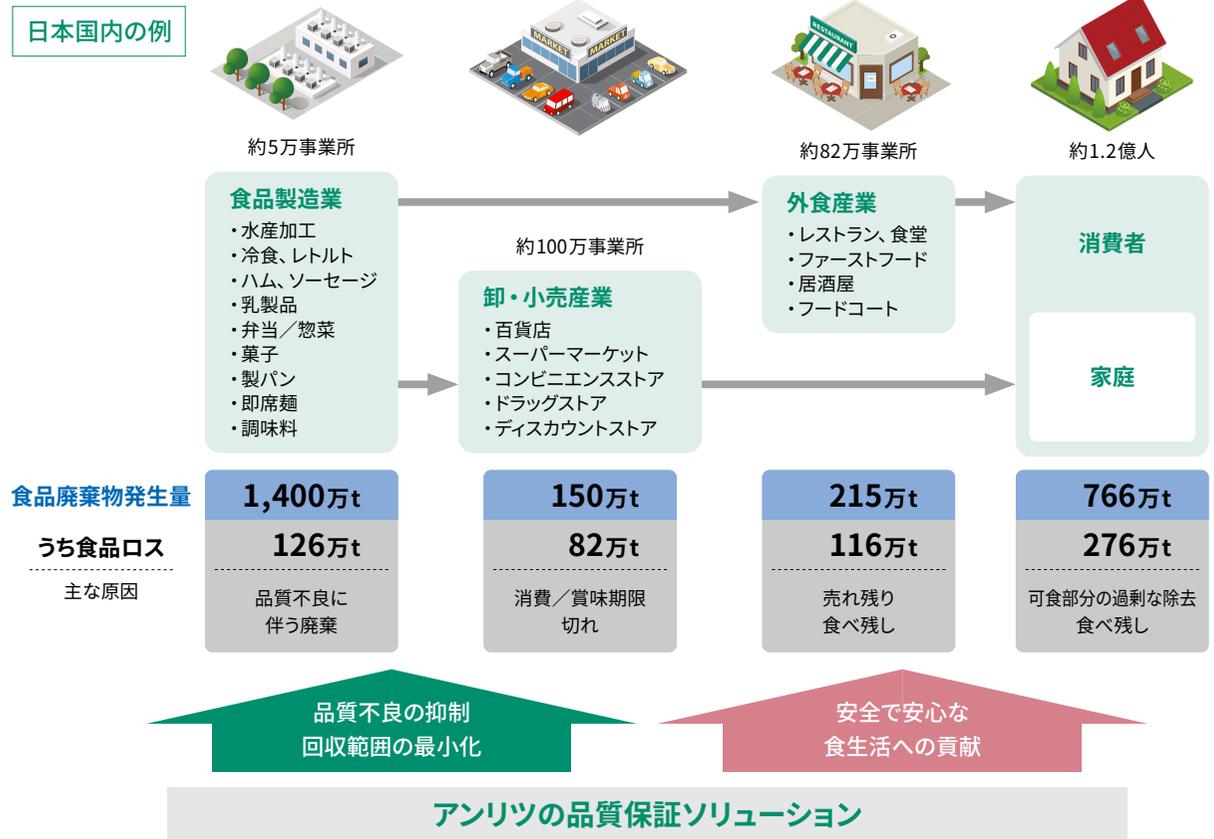
不良品が発生しないのが一番ですよね？製造の段階で食品ロス低減に役立つソリューションはありますか

アンリツの品質保証ソリューションは製造工程の全域に及んでいます。例えば原材料の段階で不良部分だけを取り除くことで不良品の発生を防いだり、品質データをモニターすることで不良品を作り続けてしまうことを抑制したりすることができます。食品ロスを低減することはお客様の利益に貢献することでもあります。



なるほど。アンリツの品質保証ソリューションは食料の有効活用に役立っているんですね。

食品流通段階ごとの食品ロスの発生量



※食品廃棄物にはまだ食べられる食べ物と、食品加工の段階で出る肉や魚の骨などの食べられない部分の両方を含みます。食品ロスはまだ食べられるのに、捨てられてしまう食べ物のみを指します。食品廃棄物発生量と食品ロス数値は2018年度の推計値：農林水産省

環境計測事業

先進技術と高い信頼性の通信品質向上ソリューションと映像監視ソリューションを提供し、お客さまとともに安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。また、ローカル5Gの導入・運用プロセスを支援して普及を加速し、新たなデジタル社会の変革に貢献します。



社会課題・顧客ニーズ

デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

社会課題

- 在宅勤務、オンライン授業増加による通信量の急増
- 豪雨、地震などの自然災害の増加

顧客ニーズ、関心事

- 企業内の通信障害(遅い、つながらない)を簡易に解決したい
- 監視現場の状況を画像でリアルタイムに的確に把握したい



PureFlowWS1を導入し、通信帯域の優先制御を行うことで、在宅勤務者の増加による業務サーバへのアクセス不安定を解消する。

広域に設置された河川・道路監視カメラの映像を災害対策室のモニターに高精細画像で表示。複数地点の情報を多角的に把握し、防災、減災につなげる。

お客さま



帯域制御装置 PureFlowWS1
通信品質改善、ネットワーク安定化を実現



情報閲覧装置 SightVisor2
ハイビジョン映像を9画面表示可能

高信頼な
通信ネットワーク機器
を開発、製造し販売

アンリツの強み

- 独自技術とソリューション提案力
- 豊富な納入実績

アンリツ

未来社会

いつでも、どこでも、ストレスなくつながる快適な通信環境が実現



自然災害に対する防災、減災対策が進化し、誰もが安心して暮らせる社会が実現



センシング&デバイス事業

さまざまな産業製品の核となる光デバイス、超高速電子デバイスを世界中に供給し、お客さまとともに人々の暮らしの利便性を高め、安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。



社会課題・顧客ニーズ

デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

社会課題

- データ通信量の増加に耐えうる強靱な通信インフラ構築
- 高齢化に伴う眼の疾患患者の増加

顧客ニーズ、関心事

- 通信インフラを構成する光ファイバに流れる光信号品質を確保したい
- 高分解能な網膜状態検査装置を開発したい

データセンタ ← 光トランシーバ

SOA

データセンタ間などの長距離光通信網にアンリツのSOAを組み込むことで、光信号を劣化させることなく、安定した通信環境を構築できる

眼科OCT (網膜断面観測装置)

SLD光源

アンリツのSLD光源を眼科OCTに組み込むことで、高分解能な網膜検査が可能となり、早期に加齢黄斑変性症や緑内障の発見が可能となる

お客さま

半導体光増幅器 (SOA)
長距離通信で減衰した光信号を増幅

医療用光センシング向けSLD光源
眼科OCTで高い測定分解能を実現

高性能、高信頼のデバイスを開発、製造し販売

アンリツの強み

- 化合物半導体をコアとする先端的なデバイス技術
- 自社一貫プロセスで柔軟な対応力と高品質を実現

アンリツ

未来社会

高速・大容量通信を活用したデジタル革新により、社会課題の解決を実現



医療の進化により、あらゆる年齢の人々が健康に生活できる社会を実現



サステナビリティ経営のこれから

アンリツのサステナビリティ経営は進化を続けていきます。

法令遵守と社会貢献中心のCSR推進から社会課題の解決により持続可能性を追求するサステナビリティ推進に舵を切り、多くのことを学び実践してまいりました。当初は経営層からのトップダウンで幹部職層までの浸透だった活動が、最近では社員一人ひとりにSDGsの自分ごと化として浸透しつつあります。これまでのサステナビリティ経営をより明確にサステナビリティ方針に落とし込むため、2021年4月の経営ビジョン、経営方針、ブランドステートメントの刷新に合わせてサステナビリティ方針を改定いたしました。アンリツのサステナビリティ経営が目指す未来は、事業を通じて社会課題の解決に貢献すること、社会の要請に応える課題解決に貢献すること、そしてコミュニケーションの推進による共有価値の創造をすることにより、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献して、企業価値を向上し、社会から成長・発展を望まれる企業となることを目指しています。その考え方を表現いたしました。改定後の内容には、2015年に国連において全会一致で採択されたSDGsのアジェンダにある5つのP(People、Planet、

Prosperity、Peace、Partnership)の要素が包含されており、サステナビリティ経営の明確な指針となっていると考えています。

主要な部門の代表者からなるサステナビリティ推進会議を中心に、重点項目を明確にして情報共有し、各代表者から各部門に展開・浸透させて推進します。また執行役員・理事からなる経営戦略会議や取締役会においても議論して進めています。各部門で設定した取り組みをKPIの進捗も含めてPDCAを回し、経営層からのフィードバックと社員一人ひとりの活動・意見など、建設的な意見交換・議論のできる場として機能させています。

社会の要請に応えるESG課題は、環境・社会への悪影響を最小限に抑えるものと捉え、社員と経営層が一体となって進めていくことが必要です。そのため2030年目標のマイルストーンとなる中期経営計画GLP2023にESG課題と目標をKPIとして設定し、明確な全社目標として取り組みます。気候変動対策活動PGRE 30(自家消費の再エネ自家発電比率30%を目指すもの)、多様な人材の活躍を目指すダイバーシティやサプライチェーンにわたる人権問題への取り組み、事業活動による産業と技術革新の基盤づくりを推進して、持続可能で魅力的な未来を次世代につないでまいります。

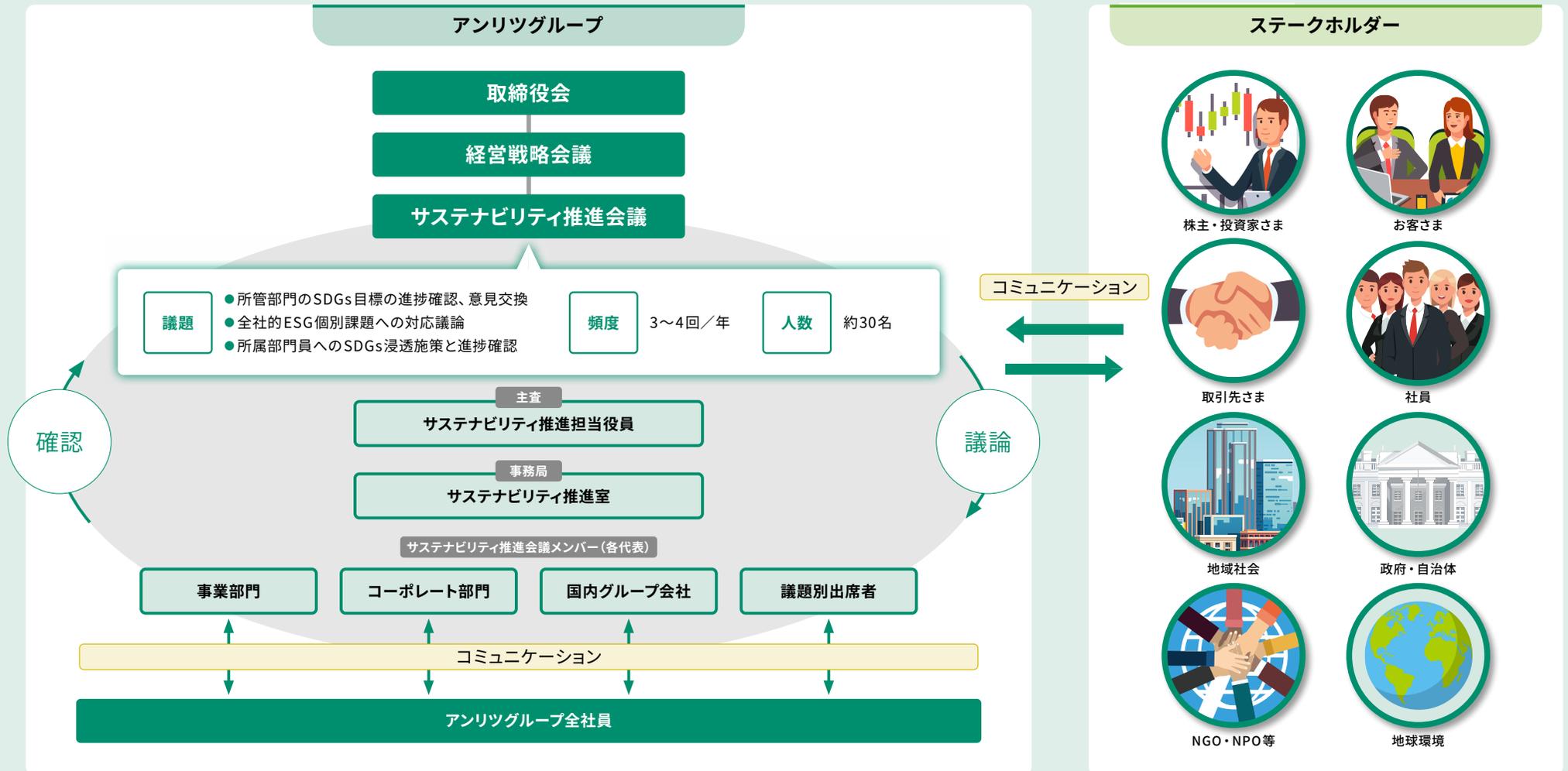
 P.01 共に持続可能な未来づくりを サステナビリティ方針



常務理事
サステナビリティ推進室長
高木 章雄

サステナビリティ推進体制

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ活動を推進しています。2020年4月に活動の中心を担うサステナビリティ推進会議のメンバーを増員し、アンリツグループ全体で丸となった取り組みを加速しています。なお、ESG課題や取り組みの進捗報告を経営戦略会議や取締役会に上申しており、2020年度は、取締役会でのESG課題に関する議論は9件でした。



ステークホルダーとのコミュニケーションとパートナーシップ

アンリツはステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、適切かつタイムリーな情報開示を行っています。またパートナーシップの構築を通じて、さまざまな活動を行っています。



ステークホルダー	取り組みの状況	コミュニケーション機会の一例、関連サイト
株主・投資家さま 	対象期間：2020年4月～2021年3月 <ul style="list-style-type: none"> 海外投資家様向けのIRイベントとして、証券会社主催のカンファレンス(トップ層によるIR):16件、海外IRリモートロードショー:3件に参加。合計239社(米州:87社、欧州:24社、アジア他:128社)の海外投資家とトップ層が面談 オンライン会議の積極的な取り込みにより移動時間を無くし、さらにスケジュールの空き時間を有効に活用することで、トップ層が関与する面談数を28%増加させた 国内投資家245件、海外投資家228件の面談を実施 株主・投資家の声を取締役会、経営戦略会議へフィードバックし、さらに幹部職向け社内イントラで周知 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 決算説明会 ▶ 株主総会 ▶ IR個別面談 ▶ 証券会社主催のカンファレンスへの参加 ▶ 統合レポートやWebサイトによる情報発信 ▶ 株主・投資家の声のトップ層へのフィードバック <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; display: inline-block;">WEB 投資家のみなさまへ</div>
お客さま 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全性・品質・先進性の高い製品・サービスの創出、適切な製品・サービス情報の提供、問い合わせ窓口の充実など ● パートナーシップによる開発推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ お客さま相談窓口、Webサイトでの情報提供
取引先さま 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業方針や資材調達方針の説明、表彰などを行う取引先さま懇親会、情報交換会の実施 ● 取引先さまとともに、CSR調達・グリーン調達を推進、人権デューデリジェンスを実施 ● 取引先さま製品展示会、セミナー、技術交流会(オンライン開催含む)などを通じたビジネス機会創出 ● 取引先さまから改善・要望などをご提案いただく「パートナーQU(Quality Up)活動」の推進 ● 社員との面談に関するご意見などをいただく「面談時アンケート」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 取引先さま懇親会 ▶ 情報交換会 ▶ 取引先さま往査 ▶ 取引先さま製品展示会 ▶ パートナーQU活動 ▶ コラボレーションルームの設置 ▶ 面談時アンケート
社員 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員エンゲージメントの確認と改善 ● 企業倫理に関する実態把握と改善 ● 職場環境とコミュニケーションの改善 ● 女性活躍の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社員エンゲージメント調査(年1回) ▶ 倫理アンケート(年1回) ▶ ヘルプライン(通報・相談窓口)の設置 ▶ 座談会、勉強会によるキャリア開発の支援
地域社会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境保護活動(生物多様性保全)」を3本柱とした地域密着型の社会貢献活動を展開 	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; display: inline-block;">WEB 社会貢献活動</div>
NGO・NPO等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)との災害発生時の情報共有、寄付 ● 障がい者アーティストの経済的自立や社会参画を支援している(一社)障がい者自立推進機構のパラリンアートに協賛 ● 気候変動対策を推進するイニシアチブとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「令和2年7月豪雨」支援金 ▶ パラリンアート作品5点を利用 ▶ TCFD^{*1}、JCI^{*2}への賛同、電機・電子温暖化対策連絡会との情報共有 <p>※1 Task Force on Climate related Financial Disclosures：気候関連財務情報開示タスクフォース ※2 Japan Climate Initiative：気候変動イニシアティブ</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● ESGに関する評価機関、報道機関とのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ESG調査への回答、ESG評価への意見交換 ▶ CDPへの回答

ESGハイライト

アンリツは、非財務情報の開示にあたり、分かりやすさを心がけ、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションと協働により、グローバル社会のサステナビリティの実現に向けて取り組んでいます。

コミュニケーションツールの強化

第24回 環境コミュニケーション大賞において
「気候変動報告優秀賞」を受賞

多くの皆さまにアンリツのサステナビリティ経営の実態をお伝えするため、注力する気候変動対策の分かりやすい情報開示に努めてきました。その結果、アンリツサステナビリティレポート2020(2020年8月発行)が、環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムが共催する第24回環境コミュニケーション大賞の環境報告部門において、下記講評を得て、「気候変動報告優秀賞」(地球・人間環境フォーラム理事長賞)を受賞しました。



講評

サステナビリティ経営を推進することで企業価値向上を目指そうとする意気込みを感じられるレポートになっている。環境については、自社の環境負荷はさほど大きくない中で、気候変動を重要な課題と捉え、バリューチェーンを考慮してSBTの認定取得やTCFDフレームワークに沿った情報開示、さらには、環境配慮型製品の開発、再生可能エネルギー導入に向けた長期目標設定などに取り組むことで、社会課題解決、さらにはSDGs達成への貢献も視野に入れている点が優れている。

取引先さまとのコミュニケーション

交流組織「富士見会」を通じた
取引先さまとの連携強化

取引先さまとの交流組織である富士見会へのコミュニケーションに力をいれています。定期的に情報交換会を開催し、経営方針や事業展開、調達方針などについて共有しています。取引先さまを代表して株式会社ワカ製作所 代表取締役社長 若林 佳之助さまから下記コメントをいただきました。



VOICE

株式会社ワカ製作所 代表取締役社長 若林 佳之助 様
アンリツさまは、取引先を本当に大事にしてくれる会社であり、見積り金額だけで納入先を選定するわけではなく、サプライヤーを育てながら共に関係を築いていくという考え方が強い会社だと感じています。

健康と事業継続に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症対策
不織布マスクを自社製造

アンリツは、コロナ禍におけるBCPの一環として自社で不織布マスクの製造設備を導入し、アンリツ興産(株)が製造を担っています。社員に配布し、飛沫感染防止に役立てるとともに、お客さまや取引先さま、近隣の皆さまにも提供しています。



VOICE

アンリツ興産(株) 渋谷 大輔
材料の調達や製造での調整など、さまざまな課題を関係部門が一丸となって乗り越え、製造しています。この取り組みが社内外の多くの皆さまの安全・安心を守ることにつながると思い、やりがいを感じています。今後も高品質なマスクの安定供給に努めます。



ENVIRONMENT



SOCIAL



GOVERNANCE



STAKEHOLDERS
COMMUNICATION

Anritsu

アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1

TEL: 046-223-1111 <https://www.anritsu.com>